

■ 開設年度		■ 開講部局			
2011		共通教育			
■ 科目名					
公共哲学論					
■ 英語科目名					
Public philosophy theory					
■ 前後期		■ 開講区分		■ 科目形態	
前期		毎週		講義	
■ 単位数		■ 大分類（科目）		■ 中分類（分野）	
2		教養科目		分野2	
■ 受講学部学科					
全					
■ 担当教員			■ 担当教員所属		
吉田 健一			稲盛アカデミー		
■ 連絡先（TEL）			■ 連絡先（MAIL）		
099-285-3756			k5621643@kadai.jp		
■ オフィスアワー（授業時間外の対応）					
水曜午後。 事前に連絡すれば、上記以外でも可。					
■ 共同担当教員					
■ キーワード1			■ キーワード2		
視野・判断力・探求能力			社会的貢献意識		
■ 授業概要（目的・内容・方法）					
今日、我々を取り巻く環境は、公共性に関する新たな思索とそれを論理化する学問を必要としている。しかし、所謂「哲学」は、専門分化して、現実社会をどうするか？という大きな問題に対処できなくなって来てしまった。現在では「文学部」的な学部の一部の専門家の占有物となって、社会的な発言権を失いつつある。 一方、個別具体的な社会科学も実証主義に陥るばかりで、あるべき社会像を議論するという大きな志を失っている。現実を分析する事も大事ではあるが、社会現象を分析すると共に、社会に対する理想、哲学がなければ、ここ数年来の日本の現状に見られるようにひたすら現実追認の社会しかやって来ない。 「公共哲学」は、人間はどうあるべきか？どう生きるべきか？という哲学的なテーマと、社会はどうあるべきか？政治や諸制度はどう構築されるべきか？という、社会科学の課題を結ぶものである。 本講義の目的は、近世から近代・現代の日本の思想家を概観する事によって、「政治」・「公共」・「哲学」・「思想」をキーワードに、今後のあるべき人間社会を考える事である。					
■ 学習目標					
1) 日本の近現代史の中で、「公共」について思索した思想家・学者の思想について理解する。 2) 今日の日本の抱える問題を具体的に解決する方策として、過去に学び未来を作るという観点で新しい公共性について考察する。					
■ 授業計画（15回に分け、回数、授業内容、自学自習等）					
第1講：日本の近世・近現代の思想について					
第2講：江戸の商人道徳 石田梅岩（1）					
第3講：江戸の商人道徳 石田梅岩（2）					
第4講：幕末の思想家 横井小楠（1）					
第5講：幕末の思想家 横井小楠（2）					
第6講：幕末の思想家 横井小楠（3）					
第7講：明六社と福沢諭吉（1）					
第8講：福沢諭吉（2）					
第9講：自由民権運動 中江兆民（1）					
第10講：自由民権運動 中江兆民（2）					
第11講：大正デモクラシー 吉野作造（1）					
第12講：大正デモクラシー 吉野作造（2）					
第13講：大正デモクラシー 長谷川如是閑（1）					
第14講：大正デモクラシー 長谷川如是閑（2）					

第15講：戦後の思想 丸山眞男	
■ 受講要件	■ 成績の評価基準
近世・近現代の日本で、「公共哲学」について思索した、思想家・学者に関心をもっていると良い。22年度に受講してない事。	3分の2以上の、出席を前提として (1) 毎回のフィードバックシート (50%) (2) 期末レポート (50%) を総合的に評価。 期末レポートの提出要件は3分の2の出席とする。
■ 教科書	■ 参考書
受講者には、受講登録後、授業で使う講義用テキストの冊子を配布する。	『公共哲学とは何か』山脇直司・ちくま新書・2004年、 『佐久間象山・横井小楠』日本の名著・中央公論社・昭和45年、 『横井小楠』圭室諦成・吉川弘文館・1967年、 『横井小楠—維新の青写真を描いた男—』徳永洋・新潮新書・2005年、 『丸山眞男講義録』第1冊 - 第7冊・東京大学出版会・1998年、他多数。講義中に随時紹介する。
■ その他	